

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人竹林院
事業所名	グループホームかぐや姫
所在地	西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設のデイサービス利用者との交流が自由にもてる。 ・併設に病院があり、希望に応じ受診、物療、リハビリが受けられ、対応も早い。 ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。 ・月に1回 ボランティアによる音楽療法を実施。 ・月に2回 同法人のとの交流会を実施。 ・医院長自ら、週1回程度GHを訪問し入居者との面談を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな田園に囲まれた事業所には、母体の診療所やデイサービス、訪問介護事業所が併設されているほか、近くには小学校、交番、市役所野村支所があり、生活をするためには恵まれた環境である。事業所と母体の診療所は協力体制が取れており、利用者の健康管理をしたり緊急時には迅速に対応できるなど、利用者は安心してサービスを利用することができる。管理者は職員と一緒に現場で働いており、よくコミュニケーションが取れ話しやすい関係づくりができています。職員は行事などお互いに協力しながら、利用者のサービスの向上に努めている。利用者同士の会話は楽しく弾み、見守る職員のまなざしがとても優しく、穏やかで安心して過ごしている様子を伺うことができる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム かぐや姫

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)
氏名 竹田 由利子

評価完了日 平成 26 年 6 月 26 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各階それぞれに理念があり、毎日の申し送りや月に1度の勉強会などで理念に触れ、職員皆が同じ方向性を持ち意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 開設当初に事務長を中心に話し合い理念を作成しているほか、各ユニット毎のケア理念も作成している。さらに理念を実践するため具体化した介護目標や行動指針を立て、玄関やリビングに提示し、職員は常に理念等を意識して日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼・小・中学校との交流の機会がある。	
			(外部評価) 近隣の幼稚園や小学校の運動会などの季節行事に参加したり、中学生の体験学習を受け入れたりするなどの交流をしている。事業所には子供みこしの訪問があり、利用者は楽しみにしている。事業所の納涼祭には地域住民に参加協力を呼びかけ、地域との交流を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症についての相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者や利用者家族、関係機関から要望や助言等を取り入 れながら、今後の取り組みに反映させている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、消防署長、小学校長、市担 当者等の参加を得て、同法人が市内で運営するグループ ホームと合同で開催している。会議では利用者の生活の様 子や行事、感染症予防対策の課題などを報告し、参加者か ら活発に意見をもらっている。また、会議では災害時など の協力をお願いしている。	会議を通して認知症の高齢者の理解を促し、地域住民 との交流が広がるよう、警察署員や民生委員、他の事 業所の管理者などに会議への参加を呼びかけ、多角的 な意見をもらうなど、サービスの向上に役立てることを 期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 各関係機関との情報交換を行っている。今後とも共同関係 が出来るように担当者と会う機会を増やすようにする。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を 行うほか、アドバイスなどをもらっている。日頃から気軽 に介護サービスなどを相談できる関係づくりをしている。 また、2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の話 を聞いたり、相談や交流をしたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が身体拘束に関する理解と意識を持っており、身 体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 職員は身体拘束等の研修会に参加し、正しく理解して拘束 をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、利 用者は自由に入出りできるよう配慮している。地元出身の 利用者や職員が多く、気になる方言や言葉づかいは職員間 で注意し合い、言葉での拘束に繋がらないよう努めている 。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が進んで研修会に参加している。日々の利用者の声、表情、身体状態を十分把握し、安心して生活できるよう努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識取得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分の説明を行い、理解、納得の上で入居されている。契約内容はわかりやすい表現を心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 話し易い雰囲気、環境作りに努め、出された意見等は直ぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 日々の会話の中から、利用者の意見を聞くようにしている。面会時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には、「かぐや姫通信」に手紙を添えて送付したり、電話で利用者の様子を伝え情報交換をしている。出された意見は、利用者や家族の協力を得ながら運営に反映できるよう工夫している。また、家族が発足し、初回の開催を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常にコミュニケーションが図れるよう心掛け、要望や意見を聞くようにしている。又、1年に1回代表者との個別面談を実施している。月に1回のリーダー会もあり必要時は職員の意見を聞く場を設けている。 (外部評価) 年1回、職員は法人代表者と個別面談を行い、意見を伝えることができる。日頃から管理者は、職員が意見を出し合える雰囲気づくりを心がけており、事業所を職員とともにより良いものにしていこうとする姿勢を伺うことができる。また、職員が外部研修等に参加しやすい勤務体制を整え、参加した職員は報告書を作成し伝達をするなど、情報を共有できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給、精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1度、施設内の研修を実施している。施設外研修では希望を聞き、年間を通してひとりが2～3回は受講できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の状態をよく把握し、職員皆が情報を共有する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話に耳を傾け、何を望んでいるのか、家族の気持ち になって受け止める努力をする。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 正確なアセスメントや家族の思いを傾聴し、満足できる支 援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 人生の先輩である意識を忘れず、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) どんな小さな事でも家族と連絡を取り合う事で信頼関係を 築き、同じ思いで支援することを伝える。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) スーパー、美容院、友人宅、お墓参りに行ったり、地域の 行事などに参加する事で、馴染みのある生活の継続を支援 している。	
			(外部評価) 知人の訪問も多く、快く受け入れをしている。利用者の希 望に応じて、行きつけの美容室や店に買い物に出かけられ るよう支援している。また、お墓参りや生家の近くにも出 かけることもある。併設されている診療所やデイサービス には顔見知りの地元の利用者も多く、会話などを交わして 交流をするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援して いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も病院や施設に様子伺いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望に添う様声掛けているが、困難な場合には家族にも協力をお願いしている。 (外部評価) 1対1となる居室や入浴時に思いや希望を聞くことが多く、職員は利用者に関わる時間を大切にして支援している。意思疎通の困難な利用者には、日常生活のしぐさや表情などから真意をくみ取ったり、家族から情報を得たりして思いを把握するよう努めている。新たに把握した内容は日誌や申し送りノートに記録し、職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、家族、本人から話を聞き、把握する。面会時や日常生活の中でこれまでの暮らしを知ることが出来る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できること、分かる力を生活の中で見つけていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞き、職員皆が共有し反映させている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当を中心に管理者と職員が意見を出して話し合い、介護計画を作成し、家族に説明し同意を得ている。月1回モニタリングを行いサービスの実施状況を確認するとともに、3か月に1回職員間で話し合い、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態の変化に応じて、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、それを基に介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設のデイサービスとの交流、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に何度か、幼・小・中学校との交流会がある。消防署の協力を得て防火訓練を行っている。地域の行事に参加する機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。 必要時には訪問診察に来てもらっている。併せて職員も積 極的に医療に関する研修等に参加している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を継続して受診す ることができるよう支援している。家族が同行できない場 合は、職員が受診介助をする柔軟な対応を行い、受診状況 は家族に報告し情報を共有している。また、法人代表者が 医師であるため、必要に応じて訪問診療や専門医と連携を 取ることもでき、適切な医療を受けられる体制が築かれて いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 併設する病院、訪問看護、デイの看護師との連携がとれる 体勢にあり、常に相談助言をしてもらえる状況にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側との情報交換をし ながら、退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあ たっている。又、職員は医学的知識が身につくよう研修に 参加している。	
			(外部評価) 事業所では初めての看取りを経験している。「看取り・マ ニュアル」を作成し、重度化や終末期には、24時間体制で 母体の診療所と訪問看護と協力体制が図られており、緊急 時にも迅速な対応ができ、利用者は安心して事業所を利用 することができる。利用者の状態の変化に応じて、利用者 や家族等にきちんと現状を説明して信頼関係を築き、その 都度話し合い意向を確認しながら、思いを受け止め納得の いく最期を迎えられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、半年に1回避難訓練を行っている。運営推進会議のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。 (外部評価) マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て火災避難訓練を実施している。近隣の小学校と合同で避難訓練を実施したこともあり、協力体制を築いている。職員だけでは利用者の避難誘導に限界があり、運営推進会議等を活用して地域住民への訓練の参加を呼びかけているが、実現には至っていない。	地域住民との災害時の協力体制を築き、一緒に訓練を実施できるようさらに呼びかけ、実現できることを期待したい。また、リストに基づいた飲料水や食料品、ラジオなどの備蓄品等を定期的に点検し、災害時に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声掛けなど配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 排泄時や入浴時等の介助には、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないよう気配りをしながら対応している。利用者の呼び方は、基本的に名前で呼ぶようにしている。利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ひとりひとりにあった声掛けをし、利用者自身の自己決定を意識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、個人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、日常衣の自己選択だったり、それぞれの個性を尊重した身だしなみができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じ、調理の下ごしらえや片付けを無理強いすることなく職員と共に行っている。	
			(外部評価) 栄養士が献立を作成し、昼と夕食は専任の調理員が調理し、朝食は夜勤職員が調理している。食事風景は大変穏やかで、職員は利用者と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。職員が横に座り、食事介助をしている利用者もいる。また、手の不自由な利用者には、自力で食事が摂れるような食器や滑り止めマットを使用し食べやすい工夫をしている。利用者は調理準備や後片付けなどを職員と一緒に手伝っている。誕生日には、リクエストメニューを取り入れ、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は毎日記録している。又、個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、キザミ食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声掛けをし、能力に応じて職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつける事で、個々の状態を把握し、排泄の支援につなげている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者のプライバシーに配慮しながら時間帯での声かけや誘導を行うほか、職員は排泄のシグナルを見逃さないよう注意深く観察するなど、トイレで排泄できるよう支援している。また、紙パンツやポータブルトイレを使用したり、便秘の内服薬を飲んだりするなど、利用者に合わせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や運動に気を付け、声掛けを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間、曜日の変更など希望を受け入れながら対応している。コミュニケーションを図りながら安全でゆったりと楽しい入浴ができるよう心掛けている。	
			(外部評価) 週2回を基本として、午後に利用者は入浴することができる。利用者が入浴する度に、湯を入れ替え気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理強いしないようチームで対応している。利用者に合わせて、福祉用具を使用したり、2人体制で介助をしたり、同性介助に対応するなど、安心安全に入浴できるよう支援している。また、ゆず湯など季節感を取り入れ、利用者が入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や夜間の安眠等、その時々状況に応じて安心して休めるような環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの使用している薬の内容が分かるようにしている。又、薬に変更があった時には記録に残し変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりの役割や楽しみごとを見出し生きがいのある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一年を通して、できるだけ多く外出する機会を作り利用者の気分転換を図っている。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。 (外部評価) 静かな田園に囲まれた事業所周辺は散策できる環境に恵まれており、日常的に散歩をしている。散歩時には隣接している小学校の元気な子供たちの様子も見ることができる。利用者の希望に応じて、買い物やお墓参りなどに出かけられるよう支援している。季節に応じて、コスモスなどの花見や乙亥大相撲の観戦に出かけるなど、利用者は外出を楽しんでいる。また、帰宅願望のある利用者には家族の協力を得て、自宅に帰れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて金銭管理をしてもらっている。本人、家族の希望があればホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ自由に手紙のやり取りや電話が出来るようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活しやすい空間作りに心掛けている。花を飾ったり壁面を工夫するなど、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 共用空間は採光が十分に入り、明るく感じられる。一角にある畳スペースには暖かい日が差し込み、ひなたぼっこをするなど、調査日には利用者が気持ちよさそうに臥床している姿が見られた。清掃も行き届き、利用者が思い思いの場所でゆっくり寛いでいる。随所に季節の花や利用者の写真や作品が飾られ、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファ等の配置にも気を配り、常に利用者がくるろげるような環境作りを心掛けている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) プライベートな空間に配慮し、利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に取り入れている。	
			(外部評価) 居室はベッドやエアコン、クローゼットが完備されている。居室には使い慣れた家具や愛用していた物品を持ち込んで家族の写真や飾るなど、居心地の良い空間づくりをしている。仏壇を持ち込んで、自宅と同様にお供えをする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ひとりひとりの状態や能力を見極め、少しでも自立した生活が送れるように支援している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人竹林院
事業所名	グループホームかぐや姫
所在地	西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・併設のデイサービス利用者との交流が自由にもてる。 ・併設に病院があり、希望に応じ受診、物療、リハビリが受けられ、対応も早い。 ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。 ・月に1回 ボランティアによる音楽療法を実施。 ・月に2回 同法人のとの交流会を実施。 ・医院長自ら、週1回程度GHを訪問し入居者との面談を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな田園に囲まれた事業所には、母体の診療所やデイサービス、訪問介護事業所が併設されているほか、近くには小学校、交番、市役所野村支所があり、生活をするためには恵まれた環境である。事業所と母体の診療所は協力体制が取れており、利用者の健康管理をしたり緊急時には迅速に対応できるなど、利用者は安心してサービスを利用することができる。管理者は職員と一緒に現場で働いており、よくコミュニケーションが取れ話しやすい関係づくりができています。職員は行事などお互いに協力しながら、利用者のサービスの向上に努めている。利用者同士の会話は楽しく弾み、見守る職員のまなざしがとても優しく、穏やかで安心して過ごしている様子を伺うことができる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム かぐや姫

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 竹田 由利子

評価完了日 平成 26 年 6 月 26 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各階それぞれに理念があり、毎日の申し送りや月に1度の勉強会などで理念に触れ、職員皆が同じ方向性を持ち意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 開設当初に事務長を中心に話し合い理念を作成しているほか、各ユニット毎のケア理念も作成している。さらに理念を実践するため具体化した介護目標や行動指針を立て、玄関やリビングに提示し、職員は常に理念等を意識して日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼・小・中学校との交流の機会がある。	
			(外部評価) 近隣の幼稚園や小学校の運動会などの季節行事に参加したり、中学生の体験学習を受け入れたりするなどの交流をしている。事業所には子供みこしの訪問があり、利用者は楽しみにしている。事業所の納涼祭には地域住民に参加協力を呼びかけ、地域との交流を深める努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症についての相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者や利用者家族、関係機関から要望や助言等を取り入 れながら、今後の取り組みに反映させている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、消防署長、小学校長、市担 当者等の参加を得て、同法人が市内で運営するグループ ホームと合同で開催している。会議では利用者の生活の様 子や行事、感染症予防対策の課題などを報告し、参加者か ら活発に意見をもらっている。また、会議では災害時など の協力をお願いしている。	会議を通して認知症の高齢者の理解を促し、地域住民 との交流が広がるよう、警察署員や民生委員、他の事 業所の管理者などに会議への参加を呼びかけ、多角的 な意見をもらうなど、サービスの向上に役立てることを 期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 各関係機関との情報交換を行っている。今後とも共同関係 が出来るように担当者と会う機会を増やすようにする。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を 行うほか、アドバイスなどをもらっている。日頃から気軽 に介護サービスなどを相談できる関係づくりをしている。 また、2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の話 を聞いたり、相談や交流をしたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が身体拘束に関する理解と意識を持っており、身 体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 職員は身体拘束等の研修会に参加し、正しく理解して拘束 をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、利 用者は自由に入出りできるよう配慮している。地元出身の 利用者や職員が多く、気になる方言や言葉づかいは職員間 で注意し合い、言葉での拘束に繋がらないよう努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が進んで研修会に参加している。日々の利用者の声、表情、身体状態を十分把握し、安心して生活できるよう努める。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、知識取得に努力している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分の説明を行い、理解、納得の上で入居されている。契約内容はわかりやすい表現を心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 話し易い雰囲気、環境作りに努め、出された意見等は直ぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 日々の会話の中から、利用者の意見を聞くようにしている。面会時に家族から意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には、「かぐや姫通信」に手紙を添えて送付したり、電話で利用者の様子を伝え情報交換をしている。出された意見は、利用者や家族の協力を得ながら運営に反映できるよう工夫している。また、家族が発足し、初回の開催を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常にコミュニケーションが図れるよう心掛け、要望や意見を聞くようにしている。又、1年に1回代表者との個別面談を実施している。月に1回のリーダー会もあり必要時は職員の意見を聞く場を設けている。 (外部評価) 年1回、職員は法人代表者と個別面談を行い、意見を伝えることができる。日頃から管理者は、職員が意見を出し合える雰囲気づくりを心がけており、事業所を職員とともにより良いものにしていこうとする姿勢を伺うことができる。また、職員が外部研修等に参加しやすい勤務体制を整え、参加した職員は報告書を作成し伝達をするなど、情報を共有できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給、精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に1度、施設内の研修を実施している。施設外研修では希望を聞き、年間を通してひとりが2～3回は受講できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の状態をよく把握し、職員皆が情報を共有する。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の話に耳を傾け、何を望んでいるのか、家族の気持ち になって受け止める努力をする。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 正確なアセスメントや家族の思いを傾聴し、満足できる支 援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 人生の先輩である意識を忘れず、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) どんな小さな事でも家族と連絡を取り合う事で信頼関係を 築き、同じ思いで支援することを伝える。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) スーパー、美容院、友人宅、お墓参りに行ったり、地域の 行事などに参加する事で、馴染みのある生活の継続を支援 している。	
			(外部評価) 知人の訪問も多く、快く受け入れをしている。利用者の希 望に応じて、行きつけの美容室や店に買い物に出かけられ るよう支援している。また、お墓参りや生家の近くにも出 かけることもある。併設されている診療所やデイサービス には顔見知りの地元の利用者も多く、会話などを交わして 交流をするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援して いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も病院や施設に様子伺いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望に添う様声掛けているが、困難な場合には家族にも協力をお願いしている。 (外部評価) 1対1となる居室や入浴時に思いや希望を聞くことが多く、職員は利用者に関わる時間を大切にして支援している。意思疎通の困難な利用者には、日常生活のしぐさや表情などから真意をくみ取ったり、家族から情報を得たりして思いを把握するよう努めている。新たに把握した内容は日誌や申し送りノートに記録し、職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接、家族、本人から話を聞き、把握する。面会時や日常生活の中でこれまでの暮らしを知ることが出来る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できること、分かる力を生活の中で見つけていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞き、職員皆が共有し反映させている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映して、利用者毎の担当を中心に管理者と職員が意見を出して話し合い、介護計画を作成し、家族に説明し同意を得ている。月1回モニタリングを行いサービスの実施状況を確認するとともに、3か月に1回職員間で話し合い、介護計画の見直しをしている。また、利用者の状態の変化に応じて、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、それを基に介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設のデイサービスとの交流、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応できる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に何度か、幼・小・中学校との交流会がある。消防署の協力を得て防火訓練を行っている。地域の行事に参加する機会もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。 必要時には訪問診察に来てもらっている。併せて職員も積 極的に医療に関する研修等に参加している。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を継続して受診す ることができるよう支援している。家族が同行できない場 合は、職員が受診介助をする柔軟な対応を行い、受診状況 は家族に報告し情報を共有している。また、法人代表者が 医師であるため、必要に応じて訪問診療や専門医と連携を 取ることもでき、適切な医療を受けられる体制が築かれて いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 併設する病院、訪問看護、デイの看護師との連携がとれる 体勢にあり、常に相談助言をしてもらえる状況にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側との情報交換をし ながら、退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあ たっている。又、職員は医学的知識が身につくよう研修に 参加している。	
			(外部評価) 事業所では初めての看取りを経験している。「看取り・マ ニュアル」を作成し、重度化や終末期には、24時間体制で 母体の診療所と訪問看護と協力体制が図られており、緊急 時にも迅速な対応ができ、利用者は安心して事業所を利用 することができる。利用者の状態の変化に応じて、利用者 や家族等にきちんと現状を説明して信頼関係を築き、その 都度話し合い意向を確認しながら、思いを受け止め納得の いく最期を迎えられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、半年に1回避難訓練を行っている。運営推進会議のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。 (外部評価) マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て火災避難訓練を実施している。近隣の小学校と合同で避難訓練を実施したこともあり、協力体制を築いている。職員だけでは利用者の避難誘導に限界があり、運営推進会議等を活用して地域住民への訓練の参加を呼びかけているが、実現には至っていない。	地域住民との災害時の協力体制を築き、一緒に訓練を実施できるようさらに呼びかけ、実現できることを期待したい。また、リストに基づいた飲料水や食料品、ラジオなどの備蓄品等を定期的に点検し、災害時に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声掛けなど配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 排泄時や入浴時等の介助には、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないよう気配りをしながら対応している。利用者の呼び方は、基本的に名字で呼ぶようにしている。利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ひとりひとりにあった声掛けをし、利用者自身の自己決定を意識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、個人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容院に行かれたり、日常衣の自己選択だったり、それぞれの個性を尊重した身だしなみができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じ、調理の下ごしらえや片付けを無理強いすることなく職員と共に行っている。	
			(外部評価) 栄養士が献立を作成し、昼と夕食は専任の調理員が調理し、朝食は夜勤職員が調理している。食事風景は大変穏やかで、職員は利用者と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。職員が横に座り、食事介助をしている利用者もいる。また、手の不自由な利用者には、自力で食事が摂れるような食器や滑り止めマットを使用し食べやすい工夫をしている。利用者は調理準備や後片付けなどを職員と一緒に手伝っている。誕生日には、リクエストメニューを取り入れ、利用者には喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は毎日記録している。又、個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、キザミ食を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に声掛けをし、能力に応じて職員が対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつける事で、個々の状態を把握し、排泄の支援につなげている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者のプライバシーに配慮しながら時間帯での声かけや誘導を行うほか、職員は排泄のシグナルを見逃さないよう注意深く観察するなど、トイレで排泄できるよう支援している。また、紙パンツやポータブルトイレを使用したり、便秘の内服薬を飲んだりするなど、利用者に合わせた排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や運動に気を付け、声掛けを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間、曜日の変更など希望を受け入れながら対応している。コミュニケーションを図りながら安全でゆったりと楽しい入浴ができるよう心掛けている。	
			(外部評価) 週2回を基本として、午後に利用者は入浴することができる。利用者が入浴する度に、湯を入れ替え気持ち良く入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理強いしないようチームで対応している。利用者に合わせて、福祉用具を使用したり、2人体制で介助をしたり、同性介助に対応するなど、安心安全に入浴できるよう支援している。また、ゆず湯など季節感を取り入れ、利用者が入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息や夜間の安眠等、その時々状況に応じて安心して休めるような環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ひとりひとりの使用している薬の内容が分かるようにしている。又、薬に変更があった時には記録に残し変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりの役割や楽しみごとを見出し生きがいのある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一年を通して、できるだけ多く外出する機会を作り利用者の気分転換を図っている。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。 (外部評価) 静かな田園に囲まれた事業所周辺は散策できる環境に恵まれており、日常的に散歩をしている。散歩時には隣接している小学校の元気な子供たちの様子も見ることができる。利用者の希望に応じて、買い物やお墓参りなどに出かけられるよう支援している。季節に応じて、コスモスなどの花見や乙亥大相撲の観戦に出かけるなど、利用者は外出を楽しんでいる。また、帰宅願望のある利用者には家族の協力を得て、自宅に帰れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて金銭管理をしてもらっている。本人、家族の希望があればホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ自由に手紙のやり取りや電話が出来るようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 生活しやすい空間作りに心掛けている。花を飾ったり壁面を工夫するなど、生活感、季節感のある物を上手く活用している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は採光が十分に入り、明るく感じられる。一角にある畳スペースには暖かい日が差し込み、ひなたぼっこをするなど、調査日には利用者が気持ちよさそうに臥床している姿が見られた。清掃も行き届き、利用者が思い思いの場所でゆっくり寛いでいる。随所に季節の花や利用者の写真や作品が飾られ、居心地良い空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファ等の配置にも気を配り、常に利用者がくるろげるような環境作りを心掛けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) プライベートな空間に配慮し、利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に取り入れている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやエアコン、クローゼットが完備されている。居室には使い慣れた家具や愛用していた物品を持ち込んで家族の写真や飾るなど、居心地の良い空間づくりをしている。仏壇を持ち込んで、自宅と同様にお供えをする利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ひとりひとりの状態や能力を見極め、少しでも自立した生活が送れるように支援している。</p>	